

地域の 菊間918/菊間2196

1
歴史

てながいせき てんじんやまこふん
手永遺跡 / 天神山古墳

100万年前に海底で地層が形成され、その後、地殻変動で隆起し、氷河期にアジア大陸から、動物が渡ってきました。7万年前ごろからヴュルム氷期(氷河期)になり、海面が下がりました。富士・箱根方面の火山活動で火山灰が市原市にも運ばれ、堆積されて関東ローム層になりました。市原市の関東ローム層から、旧石器時代の遺跡が発見されています。

6000年前ごろに氷河期が終わり海面が急激に上昇し、台地の上に縄文時代の住居跡や貝塚が、数多く残されています。

菊間には縄文時代の遺跡が発見されており、昭和58年12月3日(1983)から昭和59年3月31日(1984)まで、手永遺跡が発掘され(現



在の菊間水再生センター)、当時マスコミに大きく取り扱われました。

菊間2810-3. 10付近

地域の

2

歴史

かじやまえいせき
鍛冶屋前遺跡①

平成18年3月(2006)、菊間「鍛冶屋前遺跡」調査が行われ、弥生時代の住居跡が発掘されました。

十数軒の住居跡と土器の破片などがあり、菊間は縄文の時代から住みやすい土地であったことが想像されます。

縄文晩期に大陸から伝えられた稲作は、弥生時代に入って本格化しました。稲作は集団で作業することが不可欠だったので、人々は土地に定住し、集落をつくって生活するようになりました。

反面、縄文時代にはなかった、集団と集団の対立が生まれるようになり、集団の規模も拡大して小国へと変わり、争いを繰り返すようになりました。稲作が始まってから「支配する者」と「支配される者」に分かれるようになりました。



地域の 菊間2751-9

3
歴史

とうかんやまこふん
東関山古墳

古墳時代は鉄器の普及かんがい、灌漑技術の発展などで、農業生産が大きく向上し、豪族が首長として、君臨するようになりました。

いち早く、勢力を拡大した大和朝廷は、地方豪族を国造に任じて、地方の支配に当たらせました。

旧事本記くじほんきに、成務天皇（13代目）のとき、菊麻国おわがのくにあたいに、大鹿国直を国造に任じたと書かれています。

強力な権力を持つ、大和朝廷が成立し、各地で古墳が造られます。4世紀中頃には、東北地方でも古墳が造られ、朝廷の勢力が東北地方まで及びました。

菊間には古墳群として、多数の古墳があり、東関山古墳は、菊間古墳群を代表する古墳です。



県営菊間団地4号棟付近／窓社1-7-23

地域の

4

歴史

しんのうづか こふん ほうきょういんとう
新皇塚古墳／宝篋印塔

古墳時代、菊間、大厩、草刈に大小多くの古墳がつくられました。そのうち、発掘調査が行われた主な古墳・遺跡として、菊間の新皇塚古墳・手永貝塚・鍛冶屋前遺跡、大厩では浅間様古墳、草刈では川焼台遺跡などがあります。

菊間の新皇塚古墳は昭和48年8月（1973）から昭和49年3月31日（1974）まで発掘調査が行われました。

塔頂に平将門の墓と伝承されていた宝篋印塔がありました。年代からみて、平将門の墓ではなく、供養塔であろうと思われます。一説には平将門を崇拜する人や、戦った人が供養塔を建立したとあります。現在は公園・駐車場になっており、宝篋印塔は上総国分寺の境内に移設されています。

